

平成23年10月25日

於：鹿児島県市町村自治会館402号室

参加者の皆様からのご意見・ご質問とその回答

食品安全委員会

鹿児島県

Q：自然の放射線と人工の放射線を一緒に考えていいのか？

○：身体に対する影響は、自然も人工も同じです。

Q：内部被爆と外部被爆は同等に考えず、分けて影響を考えた方がいいのではないか。

○：内部被爆を外部被爆と同等に考えるため、内部被爆をmSvに換算する際、実行線量係数を掛ける、この実行線量係数には様々な要因（放射性物質の種類や体内からの影響等）を勘案して出しているため、内部、外部共に被曝線量（mSv）は同等に比較できるといえます。

Q：天然の放射線と人工の放射線は一緒に考えられないのではないか。例えば海草のヨウ素は体に良いが、人工的なヨウ素はガンになるなど、危ないのではないか。

○：ヨウ素は、元々放射線を出しません。しかし元素によっては、自然の物も放射線を出すものがあります。そういったものも、物質の種類によって程度は異なりますが、人工のもの同様に身体に対する影響を及ぼしています。

Q：身体への影響はシーベルトの一本で表すとあったがどうか。

○：身体に対する影響を同じ単位で表す必要があり、シーベルトで表すときは、身体に対する影響は同じといえます。

Q：内部被爆の40mSvと外部被爆の40mSvは同じと考えていいのか。

○：mSvに換算した時点で同じといえます。

Q：放射線の子どもへの影響も調べているのか。

○：チェルノブイリの論文も検証しています。チェルノブイリの時の論文も2つあり、甲状腺ガンと白血病との関係を確認しましたが、被ばく線量推定が科学的に十分でなく、データとしては採用できませんでした。一般的に子どもは感受性が高いので、管理場面の配慮として言及したところです。

Q：鹿児島県の取組はどのようになっているか。

□：食の安心・安全推進条例を昨年12月に制定し、今年3月に基本計画を策定しましたが、その中で食の安心・安全の確保に向けてリスクコミュニケーションに取り組むこととしており、本日はその一環で開催したところです。

また、情報の提供ということで、今回食の安心・安全推進パートナーシップ制度を創設し、現在食の安心・安全推進パートナーを募集しているところです。パートナーには食の安心・安全に関する情報をメールで月2回程度提供しており、この放射性物質に関しても、基本的なことになりますが、情報を提供したところです。パソコンのメールでの受・配信が可能であればどなたでもなれますので、ぜひ参加ください。また、パートナーの方には職場や家族、自治会等で情報を広げていただくことで、広く情報の共有を図っていききたいということでこの制度を創設しております。

Q：放射線について、県はどう対応しているのか。

□：環境モニタリング調査の中で、調査が行われており、原子力安全対策室が県のホームページでも公表しているのでご覧いただきたい。

Q：放射性物質の影響を軽減するのに味噌汁の効果が高いと聞いたがどうか。

○：放射性物質の影響の軽減として味噌汁を飲むのが良いという意見がありますが、これは高い線量で腸管細胞が破壊されるのが、味噌汁で改善されたというものと聞いています。事故による現在のレベルの線量とは比較になりません。このような低い線量では味噌汁の効果は期待できないのではないのでしょうか。

また、食品を洗えば良いとも言いますが、現在では、福島から放射性物質が広範囲に飛んでいるのは考えにくいです。根から吸収したものは洗っても取れにくいので、ゆでこぼしをすると少しは取れるでしょう。がそこまでして除去する必要はないのではないかと思います。栄養価が下がる方が心配です。

以上